

令和4年度 朋友館（就労継続支援B型）事業報告

《施設の概要》

◇ 名称及び所在地

『朋友館』 岩手県大船渡市立根町字下欠 125 番地 14
TEL (0192) 27-0077 FAX (0192) 21-1632

『パン販売店』 岩手県大船渡市盛町字木町 12 番地 1
TEL (0192) 47-3689

◇ 事業の種別

就労継続支援B型事業所

◇ 概要

施設規模：敷地面積 1,590 m² 床面積 460 m²（鉄筋コンクリート造平屋建）
施設内容：事務室・相談室・休憩室・男女更衣室・便所・身障用便所
機械室・多目的ホール兼食堂・作業室 3

◇ 定員：就労継続支援B型 30名

◇ 目的

利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った、適切かつ円滑な指定就労継続支援（B型）および就労移行支援の提供を確保することを目的とする。

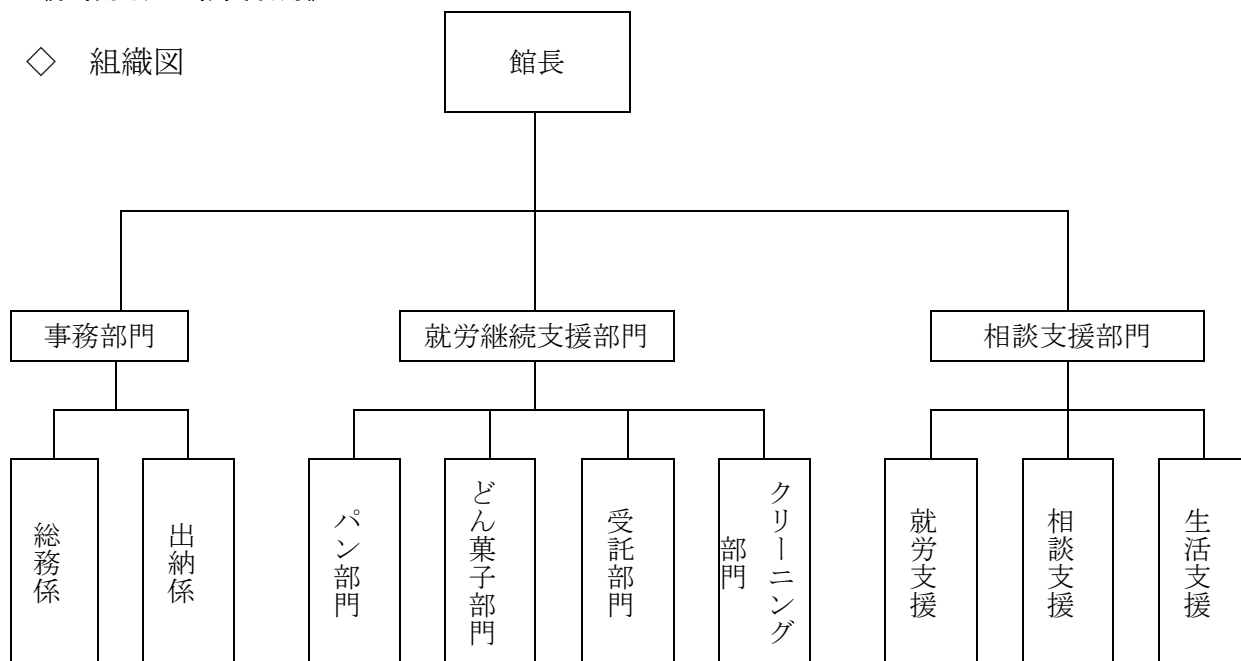
◇ 沿革

昭和 58 年 3 月 1 日 身体障害者福祉作業所開設（ワカメ剣山加工、廃品回収）
大船渡市身体障害者協会運営
昭和 60 年 6 月 クリーニング事業開始
昭和 61 年 3 月 部品組立開始
平成 5 年 4 月 1 日 社会福祉法人大洋会と統合し、身体障害者（通所）授産施設
「朋友館」として開所
平成 14 年 3 月 31 日 海産物加工（ワカメ剣山加工）廃止
平成 14 年 4 月 1 日 その他（どん菓子製造・販売）開始
平成 18 年 10 月 1 日 就労継続支援B型事業所指定（定員 20 名）
平成 19 年 4 月 1 日 就労移行支援事業所指定（定員 6 名）
平成 20 年 4 月 1 日 製造部門（BDF 製造、販売）開始
平成 21 年 4 月 1 日 就労移行支援事業所定員変更（定員 8 名）
平成 22 年 4 月 1 日 自立訓練（生活訓練）事業指定（定員 6 名）
気仙障がい者支援センター内 朋友館別館 開所

- 平成 24 年 4 月 20 日 パン製造事業 開始 (B 型)
- 平成 24 年 8 月 1 日 就労継続支援 B 型事業 定員 25 名に増員
- 平成 29 年 3 月 31 日 自立訓練 (生活訓練) 事業 廃止
- 平成 29 年 5 月 1 日 就労継続支援 B 型事業 定員 30 名に増員
- 平成 31 年 3 月 31 日 気仙障がい者支援センター内 朋友館別館 閉所
- 平成 31 年 4 月 1 日 就労移行支援事業 実施拠点 朋友館に変更
- 令和 2 年 4 月 1 日 就労移行支援事業 事業休止
- 令和 4 年 3 月 31 日 就労移行支援事業 事業廃止

《組織図及び職員名簿》

◇ 組織図



◇ 職員名簿

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	村 上 純		
サービス管理責任者(係長)	清 水 卓	職業指導員 (契約)	佐々木 かおり
目標工賃達成指導員	倉 本 裕 二	職業指導員 (非常勤)	中 沢 登美子
生活支援員	千 條 睦 美	職業指導員 (非常勤)	氏 家 綾 子
職業指導員	千 葉 美 香		
職業指導員	細 谷 智 行		
職業指導員	千 田 翔 平		
職業指導員	井 上 雄 輔		
生活支援員 (契約)	及 川 幸 子		

1. 行事・研修

① 施設内研修

月	日	研修内容	開催場所	参加者	備考
5	17	虐待防止・身体拘束適正化について	朋友館	7名	
11	4	インボイス制度について 感染症対策について	朋友館	9名	

② 施設外研修

月	日	研修会名	開催場所	参加者	研修内容
5	17	虐待防止・権利擁護研修会		1名	WEB受講
6	21	HACCP衛生管理研修会		1名	WEB受講
7	8	岩手県社会福祉協議会沿岸ブロック協議会 第1回職員研修会	陸前高田市	1名	
10	4	社会福祉従事者研修（インボイス制度研修）	大船渡市	1名	
11	14	食品表示に係る現状と食物アレルギーの 現場管理について		1名	WEB受講
	18	個別支援計画作成研修会		1名	WEB受講
12	6	岩手県社会福祉協議会沿岸ブロック協議会 第2回職員研修会	陸前高田市	2名	
2	9	法人虐待防止研修	大船渡市	10名	
	16	安全運転管理者講習	盛岡市	1名	
	28	工賃引上げ支援セミナー		1名	WEB受講

2. 会議参加

月	日	会議名	開催場所	参加者	内容
7	27	気仙地区自立支援協議会就労部会第1回定例会	大船渡市	1名	WEB
8	2	気仙圏域ネットワーク会議	大船渡市	1名	
8	24	気仙地区自立支援協議会就労部会第2回定例会	大船渡市	1名	WEB
9	28	気仙地区自立支援協議会就労部会第3回定例会	大船渡市	1名	WEB
10	26	気仙地区自立支援協議会就労部会第4回定例会	大船渡市	1名	WEB
12	24	気仙地区自立支援協議会就労部会第5回定例会	大船渡市	1名	WEB
1	24	気仙地区自立支援協議会就労部会第6回定例会	大船渡市	1名	WEB

3. 実習・研修受け入れ状況

月	日	施設名	参加者	内容
6	20～7/1	気仙光陵支援学校高等部前期産業現場実習	2名	B型アセスメント
9	26～10/7	気仙光陵支援学校高等部後期産業現場実習	3名	

4. 利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	613	628	603	641	614	620	620	630	606	642	616	704	7,537 (人)
利用率	81.9	80.3	80.6	81.9	78.5	80.5	77.0	79.5	76.5	77.5	85.5	81.7	80.0 (%)

(1) 実利用契約者数 40名

(2) 年間延べ利用者数 7,537名 (1日平均利用者数 28.2名) (※3年度 8,328名、30.9人)

(3) 利用者新規契約者数 6名

(4) 利用者契約解除者数 3名

(5) 市町村別

区分	大船渡市	陸前高田市	住田町	計
男	21	4	1	26
女	13	1	0	14
計	34	5	1	40

(6) 年齢・性別

区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
男	8	6	3	2	4	3	26
女	5	4	1	2	2	0	14
計	13	10	4	4	6	3	40
区分	平均	最高	最低				
男	42.5歳	76歳	20歳				
女	38.8歳	66歳	18歳				

(3) 工賃支給状況

区分	人員	年間総支給額	月平均支給額	最高支給額	備考
令和2年度	41名	16,206,300円	35,002円	70,600円	年間延べ支給対象者 463名
令和3年度	36名	15,752,000円	35,004円	70,000円	年間延べ支給対象者 450名
令和4年度	40名	14,817,100円	35,029円	67,700円	年間延べ支給対象者 423名

4. 利用者の支援状況

昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症の拡大により大きく影響を受けた1年となりました。感染防止対策の徹底を図りながら、就労支援事業活動の継続と限定的な内容での行事の実施に努めましたが、6月には濃厚接触者、12月には感染者の発生により、合わせて3日間利用者休業日とする対応を行いました。その期間は午前・午後の体調確認のための聞き取りなど、在宅の利用者の健康観察支援を行い、幸いにも施設内での感染の拡大には至りませんでした。今後も基本的な感染予防対策の徹底に努めながら、自

治会による教養娯楽活動の機会を増やし、心身のリフレッシュが図られるよう取り組みを強化したいと思います。併せて、良質な障がい福祉サービスの提供を目指し、職員の支援技術の向上やメンタルヘルスの充実を図れるよう、事業所としての取り組みにもより一層力を入れていきたいと考えております。

(1) 健康管理

① 日々の取り組み

送迎乗車前に今朝の検温状況を確認し、発熱症状や体調不良が生じている方については利用を見合わせていただくなど、早めの対応が可能となるよう取り組みました。また、毎月1回、定例での血圧・体重測定を実施し、身体状況の観察に努めました。

② 健康診断

(令和4年 11月7日、14日、21日、28日、12月5日、12日、19日、26日、
令和5年 1月16日、17日、23日、30日)

●所見あり(要保健指導)の診断の方は、それぞれのかかりつけ医療機関の受診を推奨しています。

(2) 生活指導

基本的感染予防対策を講じていただきながら、余暇時間の有効な利用が図られるよう、家庭との情報共有を図りながらの支援に努めました。

教養娯楽活動

- ・4月22日 お花見会 ・7月22日 スタミナ食事会 ・1月28日 新年会
- ・2月24日 いちご狩り(せせらぎいちごパーク) ・3月24日 自治会総会(慰労会)

(3) 就労支援

職場見学・企業実習については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施できませんでした。今後の感染症の状況を見極めながら、機会の確保に努めたいと思います。

(4) 日課表

月 ~ 金曜日	
9:00	朝 礼
9:05~10:15	作 業
10:15~10:30	休 憩
10:30~12:00	作 業
12:00~13:00	昼 食 ・ 休 憩
13:00~14:15	作 業
14:15~14:30	休 憩
14:30~15:30	作 業
15:30~16:00	整 理 ・ 整 頓
16:00	帰 宅

(5) 苦情解決窓口

社会福祉法第82条の規定により朋友館では利用者からの苦情に適切に対応する体制を整えております。

- △苦情解決責任者 館長 村上 純
- △苦情受付責任者 係長 清水 卓

★苦情受付件数 0件
(R4.4.1~R5.3.31)

5. 就労支援事業の概況

(1) 概況

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けながらも、全体での収入は前年度比+1.6%、約67万円の増収を達成することが出来ました。反面、クリーニングならびに食品製造においては度重なる原材料の値上げや電気代の高騰などの打撃も大きく、効果的な利益の確保につなげるのが難しい状況でしたが、今年度における工賃支給対象利用者の減少などの要因もあって、工賃支給額においてはおよそ前年度並みの水準を維持することが出来ました。

新年度に向けては、利用者様と職員が心身ともに健康で就労支援事業活動に取り組めるよう、疾病予防対策など健康管理への取り組みを継続しながら、作業部門間の横断的な連携を強化し、就労支援事業活動における体制づくりを推進するとともに、経費の節減を共通課題として意識しながら生産活動に取り組むたいと思います。また、利用者の障がいの重度化・高齢化を考慮しながら、中・長期的な事業運営のあり方についても検討を進めていきたいと考えております。

(2) クリーニング部門

クリーニング部門では、前年度比+8.4%、約176万の増収となりました。昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が続いた一方で、感染防止に配慮しながらコロナ禍以前に近い形で開催されたイベントも多く、多くの観光客の来訪により、宿泊者の増加とそれに伴うタオル類の洗濯受注の増加によって大幅に収入を伸ばすことが出来ました。その一方で、作業を受託している高齢者施設における集団感染等の影響により、大幅に収入額が減額となった月もありました。

今年度の振り返りとして、設備面においては4月に大型脱水洗濯機が更新され、更に作業効率が向上し、新規でのテーブルクロス受注も可能となりました。人員の面においては、2月まで人員不足の状況が続いていましたが、3月に新たに2名の利用者が加入したことにより、個々の利用者の負担の軽減が図られました。品質の面（顧客からの苦情等）においては、縮み・臭い・異物混入等によってお客様にご迷惑をかける事態が発生しましたが、全てが重大な問題には至らず解決が図られており、今後はより一層品質の向上を目指して取り組んでいきたいと思ひます。

新年度に向けては、①作業従事者への教育と作業指導等育成に力を入れる。②燃料・光熱費・材料費等の経費を最小限に抑える。③価格未改定の顧客や業者に対して継続して値上げの交渉を行う。④受注拡大に向けた取り組みを進める。など諸々の課題の解決に向けて取り組むとともに、今後も継続して新型コロナウイルス感染症対策及び品質管理の徹底と効率化を図りながら、地域におけるクリーニング需要を見出し、新規開拓に対応出来る体制の構築に努めたいと考えております。

(3) 受託部門

受託部門の作業収入は、前年度比約11.7%、37万円弱の増額となりました。DM封入やラベル貼り作業での収入額はおおよそ半減となり大幅な減収となりましたが、主力である基板組立作業の入荷量が前年度比で約40%、収入額にして約47万円増加したこと、加えて単発新規の封入作業の受注により、約40万円の収入を上乗せできたことが増収の要因となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策を講じ、利用者の通所率が低下している中でも増収を達成できたことは評価できる点だと考えております。

新年度からは主力の基板組立作業の受注量が減少する予測のため、その減少分を補完する代替の作業の受注に向けて交渉中です。また、受託部門内の作業に関わらず、利用者の作業能力の向上を目指し、よって朋友館全体の増収につなげていきたいと考えており、その幅広い支援に対応できる

職員体制を構築していきたいと考えております。

(4) どん菓子部門

新型コロナウイルス感染症感染予防対策として、今年度もイベントへの販売参加は行いませんでしたが、パン販売と連動した訪問販売への参加や、他施設の商品と共同で販売する機会を設けるなどの取り組みを進めた結果、昨年度と比較して僅かですが増収することが出来ました。

また、委託販売についても気仙管内のマイヤ全店舗様からの注文いただけるようになり、イオンSC陸前高田店様にも商品を以前より多めに納品するなど、売上向上に向けて取り組んでおります。

販売については定番の商品だけでなく、イベント向けに製造していた商品も、少量でも製造できるように工夫し、訪問販売における商品のバリエーションを増やし、お客様の購買意欲に繋がるように、今後も利益向上に向けた取り組みを継続したいと考えております。

(5) 製パン部門

今年度はパン事業を開始して10年程が経過しておりますが、収入額が約1,400万円と過去最低額となり、最も低調であった昨年度と比較しても150万円ほどの減収という非常に厳しい部門運営となりました。週に2回実施していた勝久会での移動販売が新型コロナウイルスの感染拡大により実施出来ず、代替の販売箇所を設けられなかったこと、同様に訪問販売については訪問先の感染予防対策もあり積極的な働きかけが出来なかったこと、委託販売を実施しているマイヤ様からの注文数が徐々に減少していること、パン店舗の営業形態が定まらず低調な売上のまま推移していることが要因として挙げられます。併せて、度重なる原材料の値上げや電気代の高騰により経費が嵩んでいる状況です。新年度に向けては、利用者の作業配置を強化し、作業支援にこれまで以上に力を入れ、部門の効果的な運営を目指して体制づくりを進めるとともに、今年度かみ合わなかった販売計画や経路を確立し、経費節減と利益向上に向けて部門全体で取り組んでいきたいと考えております。

パン部門としての今年度最大の試みは、今まで消費者第一の考えから据え置いてきたパンの価格を、菓子パン130円→150円、食パンサンド270円→300円、と年度途中の3月より値上げに踏み切ったことです。消費者の購買意欲の低下が心配されますが、今後は委託販売先の担当や販売担当者との情報を共有し、食品製造環境に万全を期すとともに、お客様から寄せられている商品ニーズを少しでも形に出来るよう、商品作りに誠心誠意取り組んでいきたいと考えております。

年 度	総 収 入	ク リ ー ニ ン グ	受 託 部 門	パ ン	ど ん 菓 子
2 年 度	42,029,655 円	20,854,373 円	3,184,548 円	16,639,113 円	1,664,707 円
3 年 度	41,147,586 円	21,074,261 円	3,229,921 円	15,814,884 円	1,028,520 円
4 年 度	41,819,341 円	22,839,386 円	3,609,191 円	14,319,417 円	1,051,347 円
構成比	100%	54.6%	8.6%	34.3%	2.5%

6. 防災状況

主	副	班 別	係 長	班 員	任 務
隊長 (館長) 村上	副隊長	指 揮	村上 純	(清水 卓)	全体の指揮・統括
		通報連絡	及川幸子	千條睦美	消防署・関係機関への連絡
		消 火	細谷智行	清水 卓	初期消火活動にあたる
		避難誘導	倉本裕二	千條睦美 千田翔平	利用者の避難誘導にあたる。

			井上雄輔 佐々木かおり	
	救 護	千葉美香	佐々木かおり	負傷者の応急手当を行う。

各部屋火気・戸締り責任者

箇 所	責任者氏名	箇 所	責任者氏名
作業室 1	倉本 裕二	医務室	清水 卓
作業室 2	千條 睦美	事務室	清水 卓
玄関	清水 卓	(旧) 厨房室	千條 睦美
多目的ホール	及川 幸子	女子更衣室	千葉 美香
休憩室	及川 幸子	女子トイレ	千葉 美香
機械室	倉本 裕二	男子更衣室	井上 雄輔
相談室	千條 睦美	男子トイレ	井上 雄輔
どん菓子作業室	千葉 美香	身障用トイレ	井上 雄輔
パン工場	千田 翔平	外回り全般	細谷 智行

訓練実施状況

第 1 回目

実施日時	令和 4 年 6 月 17 日 (金) 14 時 00 分～14 時 15 分	訓練種別	避難訓練 消火訓練 通報訓練
想定	火災訓練	避難場所	第一避難所
訓練内容	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーニング室の給湯ボイラーより出火。 ・身体障がいや高齢の利用者が多いため、避難に時間を費やすことを想定し、適切な場所からの避難誘導にあたる。 ・消火班は初期消火を速やかに行い、鎮火、もしくは被害拡大を防ぐことを目標とする。万が一、避難誘導に遅れが生じた場合、消火班は利用者の避難誘導を最優先とする。 ・通報係は速やかに消防署へ連絡する。救護係は必要に応じて対応。 ・避難場所へ誘導後、利用者全員の安全を確認する。※各部門の担当職員が人数確認をし、隊長（館長）へと報告する。 ・自衛消防隊隊長（館長）より今回の訓練の総評をし、訓練の一切を終了するものとする。 		

第2回目

実施日時	令和5年1月31日(火) 14時00分～14時15分	訓練種別	避難訓練 消火訓練 通報訓練
想定	火災訓練	避難場所	第一避難所
訓練内容	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ任務分担や避難経路を確認し、把握した上で訓練実施。 ・ボイラー室より出火。身体障がい者や高齢の利用者が複数名いるため、避難に時間を費やすことも想定される。出火場所を考え、適切な場所からの避難誘導が求められる。消火班は初期消火に向かうが、万が一、避難誘導に遅れが生じた場合、消火班は利用者の避難誘導を最優先とする。 ・通報係は速やかに消防署へ連絡する。救護係は必要に応じて対応。 ・避難場所へ誘導後、利用者全員の安全を確認する。※部門ごとに職員が人数確認をし、指揮係（隊長代理）へと報告する。 ・指揮係より今回の火災訓練の総評をし、今回の訓練の一切を終了するものとする。 		

第3回目

実施日時	令和5年3月10日(金) 15時00分～15時15分	訓練種別	避難訓練
想定	巨大地震、土砂災害	避難場所	第一避難所
訓練内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大地震により、施設玄関前駐車場に巨大な亀裂が生じる。揺れは収まっているものの、余震で被害が拡大する恐れがあるため、速やかに避難を開始する。 ・身体障がいや高齢の利用者が多く、避難に時間を費やすことが想定される。適切な非常口から早急に避難誘導にあたる。 ・2次災害に備え、車椅子やリフト付きの車両を確保し、すぐに対応できるように準備しておく。また、怪我人に応急処置ができるように救急箱を忘れずに携帯する。 ・避難場所へ誘導後、利用者全員の安全を確認する。※各部門の担当職員が人数確認をし、隊長（館長）へと報告する。 ・隊長（館長）より今回の訓練の総評をし、訓練の一切を終了するものとする。 		

7. 苦情受付 受付0件

8. まとめ

昨年度における利用者の減少、障がいの重度化・高齢化、障がい福祉サービス利用目的の多様化、新型コロナウイルス感染症予防対策による通所控えなどの複合的な要因が影響し、昨年度比で利用延べ人数791人、1日あたり利用者数2.7人の減少と、事業所運営への影響は非常に大きなものとなりましたが、今年度中に新たに6人の新規利用者を迎え入れられたことは、新年度に向けた明るい材料であると考え、引き続き感染症対策はもとより、利用者の心身の健康維持に向けた取り組みを推進していきたいと考えます。利用者支援においても、今後様々な形式での研修機会を確保しな

がら、支援者としての専門性の向上のため研鑽に励むとともに、個々の利用者の障がいの特性を踏まえた支援のあり方や障がい福祉サービス事業の利用目的に対する理解を深め、事業所の共通した支援の方向性として、利用者一人一人に施設利用における満足感を感じていただけるよう今後も継続して取り組みたいと考えております。

就労支援事業においては、圏域における感染拡大状況や取引先の事情が作業運営に影響した機会もありましたが、まずは事業所の事情により作業を中断しなければならない状況に至らないよう、利用者・職員が自身の健康管理に取り組むとともに、作業量・収入額の確保を目指して力を入れてきました。新年度に向けては、今後さらに4つの就労支援事業部門間の横断的な連携を強化し、生産活動の活性化に向けて取り組みを継続していきたいと思っております。